

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語における場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えながら文章を読むことは概ねできる。 ・学習した言葉を用いて、自分の考えを形成したり、新しい考えを生み出したりすることや、感じたことを言葉にすること。 ・知っている語句の量に差がある。また、語句を言うことはできるが、正しく書くことが難しい児童もいる。特に、長音、拗音、促音、撥音などが苦手であること。 ・助詞の「は」「を」「へ」を正しく使ったり、句読点を打ったりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使える語句を増やし、正しく書く力 ・自分の思いや考えを話したり書いたりして、相手に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなやカタカナ、漢字の学習の時に、言葉集めを取り入れる。 ・朝の会や帰りの会などで日直がスピーチをし、自分の思いを発表する機会を作る。友達と対話する機会を増やすことで、自分の思いや考えを伝え合うことができるようにする。自分の思いや考えを話したり書いたりすることが難しい児童に対しては、話型を提示する。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ・漢字は覚えて、正しく書いたり、読んだりできている児童が多い。 ・物語でも、説明文でも、文章を読んで大まかな内容を理解することができている。 ・漢字をよく見て書きとることが苦手な児童は、漢字を正しく覚えることができない。日常的に漢字を使うこと。 ・かぎや句読点等を正しく使って文章を書くことや、主語を明らかにして文を書くこと、物事の様子を詳しく書くこと、自分の考えを書き表すこと。 ・話し手の伝えたいことを落とさずに聞くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことを表す語句の量を増やす。語彙の増加 ・本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む力 ・伝えたいことの順序を考えて話す力 ・言葉の特徴やきまりを理解し、書こうとする題材に必要な事柄を集める力 	<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナや1年生で学んだ漢字を使って文を正しく使えるように、ノートやワークシートを集めて添削を繰り返す。 ・体験を通して、自分の感じたことや思ったことを文章にししたり、伝えたいことの順序に気を付けて書いたりする練習のために日記の課題を出す。 ・読み聞かせを行うとともに、様々なジャンルの本を紹介する。 ・朝の会や帰りの会の際に、児童の伝えたいことをテーマに日直の児童がスピーチをする機会を設ける。

<p>第三学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して意欲的に取り組む児童が多い。 ・心情を読み取る学習では、自分の考えをもち、友達と伝え合うことができる。 ・漢字(2年生までの漢字や新たに学習した漢字)を正しく読んだり、書いたりすること。 ・「書くこと」において、一文が長くなり、主語が不明瞭になること。 ・文意から漢字の音読みなのか、訓読みなのかを判断し、正しく読むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の定着と、日常的に活用する力 ・言いたいことが伝わるように、書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて文を書く力 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の漢字の練習や確認テストだけでなく、のびゆけタイムなども利用して、文中の言葉を漢字で書く練習をする。 ・他教科の教科書内の初見の文章を、各自で黙読した後に範読を聞き、読みが正しいかを確認させる。 ・文を書いたときや読むときに、常に主語に対する述語はどうなっているのかを意識させる。
<p>第四学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」においては、筋道を立てて話したり、内容のポイントを押さえて聞いたりすること。 ・根拠を明確にして書いたり、文章を要約したりすること。 ・筆者の考えを読み取ったり、正しく漢字を読んだりすること。 ・相手の意見を聞き入れて、自分の思いや考えを伝え合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じて、筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す力 ・文章の構成を考え、自分の思いや考えを書くことができる力 ・全体の構成を捉えながら読み、要点をまとめることができる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会で日直がスピーチをする時間を設けて、全員が話す練習ができるようにする。 ・文章の構成メモを活用したり、モデル文を提示したりして、児童が組み立てを考えながら文章を書けるようにする。 ・構成を考えながら読み、指定された文字数で要約できるようにするために、のびゆけタイムを活用し文章要約の練習問題をする。
<p>第五学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとすること。 ・内容の中心を明確にし、「事実を伝える文章」や「事実と自分の考え」を書くこと。 ・意見の共通点や相違点に着目して、自分の考えをまとめること。 ・叙述を基に「文章の内容」や「段落相互の関係」を捉えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切に、主体的に学ぶ力 ・日常生活に必要な国語を理解し、人との関わりの中で適切に伝え合う力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館を活用し、教室内の言語環境を豊かにする。 ・「話すこと」に関する単元では、児童が興味・関心をもてる題材を設定する。また、簡単な話型を準備することで、安心して話せるようにする。
<p>第六学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく読んだり、書いたりすること。 ・文章に対する感想や意見を伝え合うこと。 ・自分の意見や考えを、理由・根拠を明確にして書くこと。 ・友達の意見や考えを聞き、自分の考えと比べて、自分の考えを広めたり深めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語を大切に、主体的に学ぶ力 ・自分の思いや考えを話したり、書いたりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習をモジュールで設け、テストと復習の繰り返しで定着を図る。 ・自分の考えを書く時間、伝え合う時間を設け、相手に伝わったか、自分の考えが広がったり深まったりしたか、振り返る時間を取る。

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> •どの単元も概ね知識・技能は定着している。 •ブロックやおはじきなど具体物を操作することはできるが、式から計算して答えを出すのに時間がかかること。 •文章を理解できずに立式できない児童がおり、算数的課題だけではないつまづきが見られること。 •学習したことを日常生活で生かそうとする態度が身に付いていないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> •素早く、正確に計算できる力 •文章題から立式する力 	<ul style="list-style-type: none"> •授業の終わりに、計算カードを繰り返し使用し、素早く正確に計算できる力を付ける。のびゆけの時間や宿題などを活用し、演習問題に取り組みさせる。 •「あわせて」「ぜんぶで」「のこりは」「ちがいは」などの、キーワードになる言葉から、たし算かひき算か考えさせる。キーワードに線を引くなどして、自分に合った解決方法を選んで、自力解決できるようにする。 •担当教諭と連携して個別指導を活用する。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> •たし算やひき算の計算問題は、繰り上がりや繰り下がりがあっても正答することができる。 •文章題では、何を問われているのか、解答する際、正しい単位を用いて解答すること。 •時計の読み方が不明瞭であったり、時刻と時間の概念理解が不十分であったりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> •時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かす力 •たし算やひき算となる、キーワード(「合わせて」「ちがいは」など)を見付けるとともに、式を立てる際の見通しをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> •給食の始まりから終わりまでの時間を調べて、食事の時間が何分なのか調べたり、起きている時刻や学校が始まる時刻などを「午前」「午後」を用いて表現させたり生活の中で活用できるようにする。 •文章題で問われていることに下線を引かせ、意識をさせる。

<p>第三学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3桁のたし算やひき算はほぼできているが、繰り上がり、繰り下がりの計算で指を使っている児童がいること。 ・長さについては、距離・道のりの違いは理解できているが、単位の換算が苦手な児童がいること。 ・九九がスラスラ言えても、かけ算のきまりについて理解が十分でないこと。 ・問題文から必要な情報を取り出し、立式することが苦手な児童がいること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算力 ・問題を捉え、正しく立式する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が十分に身に付いていない児童については、授業の始まりに、学習單元以外の計算などに取り組み、復習の時間を確保する。 ・間違いの多い繰り上がり、繰り下がり的问题練習を定期的に行う。 ・キーワードに線を引くなどの提示されている条件を整理する練習をし、整理したことから立式する練習を繰り返す。
<p>第四学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形についての基礎的・基本的な概念を理解すること。 ・日常生活の中にある事象を扱うなどの発展的な問題で、問題の内容を理解し、既習学習を活用して問題を解決することが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の多様な見方や考え方ができる力 ・算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形のどこに着目すればよいかを授業のまともで明確にし、授業の始まりに復習の時間を設けることで確かな定着を図る。 ・学習内容と日常生活との関連を図り、算数への関心を高めるとともに、数的処理のよさに気付かせる。
<p>第五学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的に表現・処理したことを振り返り、よりよいものを求めて粘り強く考えること。 ・図形についての基礎的・基本的な概念を理解すること。 ・式や図を用いて、自分の考えを説明すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度 ・見通しをもち、筋道を立てて考える力 ・自分の考えを説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と日常生活との関連を図り、算数への関心を高めるとともに、数的処理のよさに気付かせる。 ・自力解決の時間を設定し、自分の考えを図や文章を使って説明させる時間を確保する。
<p>第六学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項(分数の足し算、引き算、小数の割り算)が定着していない。 ・文章や式を用いて、立式の理由等を書くこと。(無解答率が高い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の定着 ・自分の考えを図や言葉、数直線を使って表見する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく学習する言葉や公式、それぞれの意味について確認したり、既習事項と比較したりを繰り返す。 ・定着していない事項をモジュールで取り扱う。 ・問題を解決するキーワードを押さえ、立式だけでなく、なぜその式になったのか、自分の言葉で説明する時間を確保する。 ・発表の時間では考え方の良い点を評価し、表現する方法を繰り返し指導する。

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第四学年	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の地理的環境や47都道府県の名称と位置を覚えてない児童がいること。 学習したことを社会生活に活かそうとする態度が不十分なこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことが実際の社会生活の中で活用できる力 	<ul style="list-style-type: none"> エピソードや名産等を交えて知識を伝達することで、記憶しやすいようにする。 資料を活用し、実際の社会生活の課題と学習内容を関連付けられるようにする。
第五学年	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かすこと。 学習内容について、人々の生活との関連を踏まえて理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を日常生活に活用しようとする態度 具体的な資料を使って、必要な情報を調べ、まとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> 単元導入時の教材提示を工夫することで、児童が主体的に学習問題を立てられるようにする。 小単元のまとめでは、これまでの学習内容を自力でまとめる時間を設定する。
第六学年	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に、学習の問題を解決しようとする態度を身に付けること。 資料、グラフなどから、何が読み取れるかを判断したり、考えたりすること。 政治、社会の出来事などを身近なこととして考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習事項と生活を結び付けて、課題を見つけようとする態度。 見付けた課題を政治や経済がどのように解決するのかを、資料を使い情報を集め、考え、判断する力。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料提示や発問を工夫し、学習事項と生活を結び付けて課題を見つけ、見通しをもって課題解決できるようにする。 学習内容と実社会との関わりを考えさせる。 一事象が与える影響などを予想し、因果関係を捉えさせ実社会とのつながりを考えさせる。

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第四学年	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説をたてること。 主体的に問題を見出し、観察・実験を通して、結果を知ろうとすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの経験を基にして予想をたてたり、日常生活と関連付けて考えたりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものを例示して、日常生活と関連付けるようにする。 日常の経験を取り入れながら授業を行うことで、日常生活に学びを生かせるようにする。
第五学年	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に問題を解決しようとする。 観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けること。 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に問題解決しようとする態度 観察・実験などに関する基本的な技能 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容と日常生活との関連を図り、理科への関心を高める。 学習の流れの中でも「検証計画」から「観察・実験」の段階を特に丁寧に扱い、「実験・観察」を正しい手順で行わせるようにする。
第六学年	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中から様々な見方、考え方で理科的に事象を捉えていくこと。 目的意識をもって実験を行い、その結果を基に自分の言葉で考察を書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む姿勢の育成 自分の考えを表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で「なぜだろう」という見方をもち、見つけた不思議を問題に設定する。そして児童にどのような方法で確かめたらよいかを考えさせ、問題解決させていく。 観察、実験の結果をもとに、自分の考えを書き、妥当な結論を導きさせる指導を行う。 自らの経験をもとに、自分が分かる言葉で文章に表していく指導を行う。